

令和5年度（2023年度）函館市地域包括支援センター事業評価 評価結果概要

**函館市地域包括支援センターあさひ**

1 センターの概要（令和6年（2024年）3月31日現在）

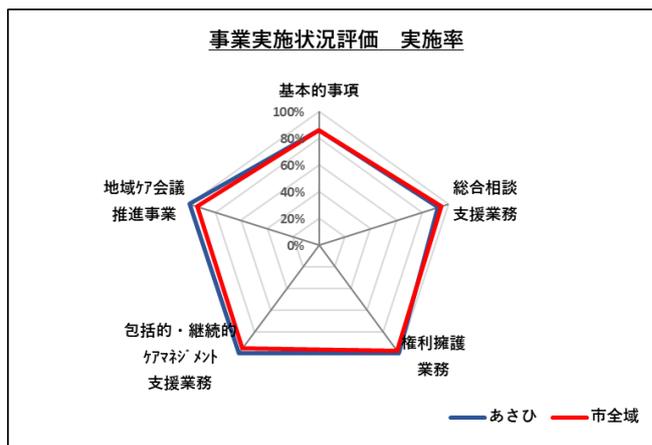
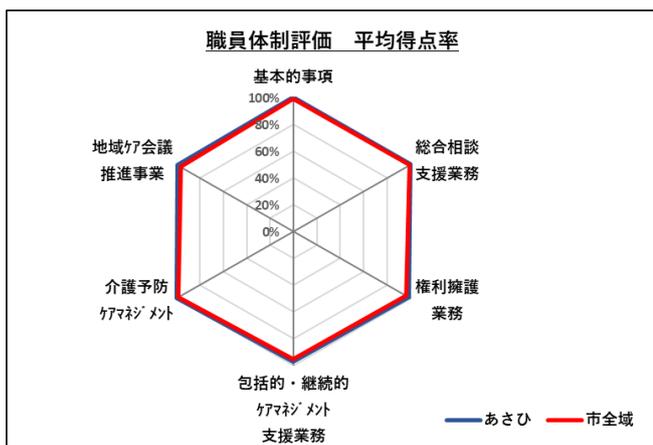
運営法人	医療法人聖仁会	所在地	函館市旭町4番12号
担当圏域	西部圏域（人口：15,581人・高齢者人口：7,007人・高齢化率：45.0%）		
配置基準職員数	5名（保健師2名・社会福祉士1名・主任介護支援専門員1名・事務員1名）		
配置基準外職員数	5名（保健師1名・社会福祉士2名・主任介護支援専門員1名・介護支援専門員1名）		

2 評価結果概要

(1) 職員体制評価・事業実施状況評価

事業種別	職員体制評価 平均得点※			事業実施状況評価 実施率		
	配点	あさひ	市全域	項目数	あさひ	市全域
基本的事項	45.0点	45.0点	44.5点	7項目	85.7%	85.7%
総合相談支援業務	30.0点	30.0点	29.7点	13項目	92.3%	94.6%
権利擁護業務	30.0点	29.5点	28.8点	13項目	100.0%	97.7%
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	21.0点	20.5点	20.1点	7項目	100.0%	95.7%
介護予防ケアマネジメント	15.0点	15.0点	14.8点	—	—	—
地域ケア会議推進事業	18.0点	17.8点	17.3点	10項目	100.0%	94.0%
合計	159.0点	157.8点	155.2点	50項目	96.0%	94.0%

※評価尺度の1を3点，2を2点，3を1点として個人の得点を算出し，全職員の得点の合計を職員数で除したものの。



【基本的事項】

○ 効果的な取組

- ・ミーティングにおいて，全職員で順番に司会や書記を担当するほか，タイムキーパーの役割を持つなど効果的かつ効率的な会議運営に取り組んでおり，また，個々のスキルアップにもつながっている。

○ 課題等

- ・活動計画の策定時，PDCAサイクルを意識した協議が行われているが，プロセス（過程）評価とアウトカム（結果）評価の記載が不十分で，前年度の取り組みを目標・計画に十分反映できていない。

【総合相談支援業務】

○ 効果的な取組

- ・ネットワーク構築を積極的に行い，また，広報紙を発行した際は手渡しで配布するなど，継続した関わりを持つことで，相談しやすい関係づくりを行っている。

○ 課題等

- ・地域の社会資源をセンター内で共有する仕組みはあるが、情報の更新が滞っているため、定期的に更新する仕組みが必要である。

【権利擁護業務】

○ 課題等

- ・高齢者虐待防止や成年後見制度について、広報紙やリーフレット配布による周知は実施したが、出前講座等による周知は依頼がなく実施していないため、周知方法の工夫が必要である。

【包括的・継続的ケアマネジメント支援業務】

○ 効果的な取組

- ・センターと圏域内の居宅介護支援事業所に所属する主任介護支援専門員が集まる「西部地区を元気にする会」を定期的に開催し、協働・連携に積極的に取り組んでいるほか、研修等の企画や地域関係者との連携等についても会のメンバーで検討している。

【地域ケア会議推進事業】

○ 効果的な取組

- ・方面毎に担当者を決めており、地域の情報収集や働きかけがしやすい仕組みができています。また、情報はミーティング等で共有するほか、数年毎に担当者をローテーションすることで、職員個々が圏域全体を把握できるよう取り組んでいる。

○ 課題等

- ・地域課題の検討を行う地域ケア会議では、町会役員等の地域関係者の参加は多いが、介護支援専門員や介護サービス事業所等の関係機関の参加が少ないため、関係機関の参加も拡大するような会議運営を検討する必要があります。
- ・地域課題の検討を行う地域ケア会議は、職員の経験に差があるため、経験が少ない職員が主担当を担う機会を増やすなど、経験を積むことによりスキルアップを図る体制づくりが必要である。

(2) 運営体制評価

- ・基準を上回る3職種の配置や継続勤務年数が長いことなど、センター事業を円滑に実施できる体制が確保されている。
- ・外部研修への参加の機会を確保するなど、教育・研修体制が整備されている。
- ・同一法人のサービス事業者の利用割合は20%未満であり、公正で中立性の高い運営が行われている。